

1998年、推進委員会を設立して組織的な活動が始まった酪農教育ファーム活動は来年度、20周年の節目の年を迎える。認証制度スタート時の認証牧場は116戸で、現状では300戸程度。牧場などで教育的活動を担うファシリテーター数は600人前後で推移している。酪農教育ファーム認証制度とその活動は酪農生産現場に定着しつつあり、その教育的效果について各方面から高い評価を受けている。

酪農家の世代交代が進む中、経営継承を受けた世代を中心に酪農教育ファームの認証を取得する動きも出てきた。牧場経営の可能性を認証に託し、良き経営につなげようと「新たな一步を踏み出した」牧場を例に酪農教育ファームの今後を考えてみる。



新たな一步を踏み出す—酪農教育ファームのこれから

経営の将来像を考える中で認証を取得 地域社会と共に存する牧場でありたい

神奈川県茅ヶ崎市 ヤッホーファーム 柿澤牧場

神奈川県の湘南地域の中心に位置する茅ヶ崎市で60年以上にわたって酪農を営む柿澤牧場。牧場周辺の都市化が進む中、地域社会と共に存する牧場を目指して今年3月、酪農教育ファームの認証を取得した。

きっかけは『うし活』との出会い

「父(知幸さん=故人)の代から牧場見学を受け入れていたが、この数年で急に住宅が増え、新たに住み始めた人が牛を見に牧場を訪れることが増えた。酪農や牛に関する情報を発信して交流を深めたいと思い、酪農教育ファームの認証を取得した」と話すのは、柿澤牧場代表の柿澤博さん(52)。

博さんは大学卒業後、神奈川県農業大学校(現・神奈川県立かながわ農業アカデミー)を経て1988年に就農した。柿澤牧場は、農業を営んでいた祖父の重保(しげやす)さん(故人)が1950年代後半に牛を導入したのが始まり。博さんは母の八千代さん(76)、92年に結婚した美里(みり)さん(50)と3人で牧場を守ってきた。

酪農教育ファームの認証を取得するきっかけになったのは、SNS(会員制交流サイト)の酪農応援サイト「うし活*牛好きのためのコミュニティ」を運営する原正則さん(35)・希さん(34)夫妻(現在、正則さんは千葉県の櫻須藤牧場従業員)との出会いだった。

美里さんは原さん夫妻に誘われて、2014年に東京都内で開かれたわくわくモーモースクール(主催:関東生乳販売農業協同組合

連合会)を見学し、酪農教育ファームに興味を持った。

「体験の内容が面白かったし、今後の経営について夫と相談する中で、JA全農ET研究所で研修中の長男(祥太郎さん=19)に良い形で経営を継承してもらうために、牧場経営の可能性を広げることが大事だと思った」

美里さんは講習を経て今年2月にファシリテーターの認証を取得、牧場も3月に認証を受けた。

市畜産会の主催で 酪農体験を提供

柿澤博さん(左)と美里さん



博さんをはじめ茅ヶ崎市の酪農家が参加した今年6月の酪農体験
【写真提供・ひまわり愛児園】

酪農教育ファームの認証取得に向けて準備を進めていた15年、博さんは茅ヶ崎市畜産会の会長に就任。同会の活動の中で酪農体験を年2回行う方針を打ち出したこともあり、認証取得前ではあったが牧場として酪農体験の提供に本格的に取り組むことになった。

今年度は市畜産会単独の事業として、6



子どもに搾乳方法を教える博さん
【写真提供・ひまわり愛児園】



美里さんは子牛との触れ合い体験を担当
【写真提供・ひまわり愛児園】

月15日に市内の保育園・ひまわり愛児園(三橋貴文園長)で酪農体験を開催。約90人の園児が搾乳体験や子牛との触れ合いを通じて楽しい時間を過ごした。

当日は、柿澤さん夫妻を含む茅ヶ崎市内の酪農家5人をはじめ市職員、農協職員など10人がスタッフとして参加。柿澤牧場は経産牛と月齢1ヵ月の子牛の2頭を提供了。「当日は対象が保育園児ということもあり、通常は体験の合間にする酪農についての話はせず、代わりに牧場にある牛の模型を持って行き、写真を撮ってもらうなど工夫をした」と博さん。

こうした牧場外での酪農体験の提供と併せて、昨年度からは地元の保育園や市の公民館が主催する体験を牧場で行っている。今年度は保育園や小学校、市内の学童クラブなど5件を受け入れる予定。牧場体験は博さんと美里さんの2人で対応するため、受け入れ人数は25人までと決めている。

こうした搾乳体験、子牛との触れ合い、酪農に関する話題提供を行う一方で、課題も浮き彫りになってきた。「難しいことを言っても伝わらない年齢の保育園児もいれば、少し専門用語を入れてもいいのかなと思える小学校高学年もいる。子どものレベルに合う体験を提供する、という点ではまだま



博さんは牛の状態を1頭ずつ確認しながら給餌を進めます

だ勉強段階」と2人は口をそろえる。

地域の中の柿澤牧場でありたい



固液分離機を掃除する美里さん。「ここに牧場があって良かったと言われる経営を目指したい」

それ以来、牛の状態が良くなってきた気がする。健康でいてくれることが私たちにとって何よりも幸せなこと」

飼は全て購入で、糞尿は固液分離機にかけて液分を公共下水道に流し、固形分は堆肥化施設で堆肥をつくり、耕種農家に販売している。

今後について博さんは「牧場のすぐ隣に住宅があるような地域だが、この場所で酪農を続けたい。地域の中の柿澤牧場として、地域住民と共に存する牧場でありたいと思う」と力を込める。

美里さんは「酪農教育ファーム活動だけではなく、いろいろな形で地元の人に受け入れられる柿澤牧場にしたい。将来的には6次産業化も検討している」と牧場の未来に思いを巡らせる。

【構成・斎藤 丈士】

認証までの手順(平成29年度スケジュール)



*認証牧場は「場」、ファシリテーターは「人」の認証です。ファシリテーターのみの認証は可能ですが、牧場の認証を受けるためには1名以上のファシリテーターを指定する必要があります。

認証牧場認証申請書、ファシリテーター認証申請書に必要事項をご記入の上、お申し込みください。
※申請書は、(一社)中央酪農会議のホームページからダウンロードすることができます。
<http://www.dairy.co.jp/edf/>

認証研修会(予定)
—1泊2日—
会場
東京
日時
平成30年1月25、26日
大阪
平成30年2月8、9日
札幌
平成30年2月22、23日

詳しくは、(一社)中央酪農会議・業務部(阿南、斎藤)
または所管の指定団体にお問い合わせください。
一般社団法人 中央酪農会議／指定生乳生産者団体
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1 堀内ビルディング4階
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295